

8 東京都の水道のあゆみ

年	ことがら
1590 天正18	江戸(今の東京)で最初の上水(小石川上水)ができる。
1603 慶長8	江戸に幕府が開かれる。 住む人が急にふえ、水が足りなくなる。
1654 承応3	玉川兄弟により玉川上水がつくれ、羽村から江戸の町中に水が送られる。
1868 明治元	明治の世の中になり、江戸が東京になる。
1886 明治19	コレラ(伝染病)が東京ではやる。
1898 明治31	淀橋浄水場ができる(鉄の管を使った今のような水道が始まる。)
1901 明治34	水道水源林の管理を始める。
1923 大正12	関東大震災が起き、水道の施設が大きくこわれる。
1924 大正13	村山上貯水池と境浄水場ができる。
1926 大正15	金町浄水場ができる。
1927 昭和2	村山下貯水池ができる。
1934 昭和9	山口貯水池ができる。
1938 昭和13	小河内ダムの工事が始まる。
1940 昭和15	多摩川の水が足りなくなり、水が時間によって出なくなる。
1945 昭和20	戦争がはげしくなり、東京に爆弾が落ち、水道施設が大きくこわれる。
1957 昭和32	小河内ダム(貯水池)ができる。
1959 昭和34	長沢浄水場ができる。
1960 昭和35	東村山浄水場ができる。
1964 昭和39	多摩川の水が足りなくなり、東京が水不足になる(東京サバクとよばれる。)
1965 昭和40	利根川から水が送られるようになる。 淀橋浄水場が使われなくなる(跡地が今の都庁と高層ビル)。
1966 昭和41	朝霞浄水場ができる。
1967 昭和42	矢木沢ダムができる。
1968 昭和43	下久保ダムができる。
1970 昭和45	小作浄水場ができる。
1973 昭和48	多摩地区市・町水道の都営水道への統合を始める。
1975 昭和50	三園浄水場ができる。
1977 昭和52	草木ダムができる。
1985 昭和60	三郷浄水場ができる。
1990 平成2	渡良瀬貯水池ができる。
1991 平成3	奈良俣ダムができる。
1992 平成4	金町浄水場で高度浄水処理を始める。
1997 平成9	荒川貯水池ができる。
1998 平成10	東京都近代水道百周年
1999 平成11	三郷浄水場で高度浄水処理を始める。
	浦山ダムができる。
2001 平成13	水道水源林百周年
2004 平成16	朝霞浄水場で高度浄水処理を始める。
2007 平成19	小河内ダム完成50周年 三園浄水場で高度浄水処理を始める。 砧浄水場で膜ろ過処理を始める。
2010 平成22	東村山浄水場で高度浄水処理を始める。
2011 平成23	滝沢ダムができる。
2013 平成25	利根川水系で高度浄水処理100%を達成する。

●玉川上水

江戸時代の代表的な水道。人がふえ続ける江戸(今の東京)に水が足りなくなったため、玉川兄弟(庄右衛門、清右衛門)たちによってつくられました。羽村で多摩川の水を取り入れ、四谷大木戸までの約43キロメートルにわたって水を送っていました。工事の途中では、水がうまく流れないなどの失敗をくり返し、兄弟は自分の家や店をもとでにお金を借りて、完成させたといらわれています。武蔵野の村々では、この玉川上水から水を引き、荒れ地を畑にすることができました。玉川上水は1654年に完成し、明治の時代になるまで、多くの人々の役に立ちました。

今でも、羽村取水せきから小平監視所までの区間では、多摩川の水を浄水場に導くために使われています。



▲玉川兄弟の像
(羽村取水せき)



▲今の玉川上水の様子
(小平監視所下流 上水小橋の辺り)

兄弟は玉川の苗字をもらいました。



▲木樋・上水井戸 (東京都水道歴史館・文京区本郷)



馬水槽

明治39(1906)年に、ロンドン市牛馬水槽協会から、当時の東京市におくられました。みんなで使えるじゃ口として使われました。牛馬用、犬猫用、人間用の三つの水飲み場がついていました。今は新宿駅東口に置かれています。

●近代水道の始まり

東京都の水が、今のように浄水場できれいにされ、鉄の水道管かんを通して運ばれ、じゃ口から使われるようになったのは、明治31(1898)年に淀橋浄水場よどばしじょうすいじょうができてからです。これが近代水道の始まりです。

それまでは、多摩川たまがわなどから引いた水を木や石の管かん（木樋・石樋）に流して、まちのところどころにある「上水井戸じょうすいいど」にためて、それをくみ上げて使っていました。しかし、だんだん木の管かんがくさるなどの原因により水がよごれ、安全な水ではなくなってきました。そこで、浄水場じょうすいじょうをつくって水をきれいにし、鉄の水道管あつりよくで圧力をかけていきおいよく送るようにしました。東京都で一番初めにできたのが、淀橋浄水場よどばしじょうすいじょうです。淀橋浄水場は、今は役目を終え、その跡地には東京都庁や高層ビルなどが建っています。



▲新宿にあった淀橋浄水場よどばしじょうすいじょう



現在の新宿▶

●現在の東京都の水道

現在、東京都の水道はおよそ1,300万人の都民とみんに水を送っています。これほどの量のきれいな水を送ることができるのは、世界の中でも数少ない都市としに限られています。より安全でおいしい水を届けるために、「高度浄水処理」という新しい技術ぎじゆつも開発されました。利根川、荒川から取り入れた東京都の水の全てが「高度浄水処理こうどじょうすいしり」されています。

世界の中で、じゃ口から直接水道水を飲むことができる国は、日本を含む、ごくわずかな国だけです。

●水道が始まったきっかけ ～水道局の人にインタビュー～



Q 水道が始まったきっかけは何ですか。

A その昔、川や井戸のよごれた水を飲んで、たくさんの方がでんせんびょう伝染病でなくなりました。そこで、人々が、安心して飲むことのできる水道水をもとめ、浄水場や水道管かんがつけられました。

